

# グループホーム あおきの里

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「福祉、人権、環境、平和、教育は皆平等の精神で地域社会に貢献できる介護施設を目指します」地域の皆様どなたでもご利用できるように理念をつくりあげている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		毎日の申し送りで必ず復唱し、ミーティングでも代表者が理念に触れ職員一同確認している。入居者のことを考え実践している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		御家族、お客様には、入居前、訪問時などお話をしている。  今後も、あおきの里の運営理念を理解していただけるようにお話していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		入居者の方と一緒に散歩にでかけたとき、近所の方から花や野菜をいただくことがある。また、近所の病院受診などあいさつをかわし、事業所の紹介等を行っている。ホームで犬を飼っているため、近所の方、通りすがりの方が声をかけてくださる。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の行事は、市政たよりの中に案内が入ってくるので、区長さんにも確認しながら、参加させていただいている。 缶ひろい、ウォーキング、ほっけんぎょ お祭り等
			より多くの皆様に知っていただけるように努めていきたい。  今後も地域行事に積極的に参加し交流に努めたい。

## グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	あおきの里から地域の皆様へ学習会などは行っていないが、随時相談を受け、社会資源の情報や認知症の方へのアドバイスさせていただくこともある。		学習会などできるように知識の向上に努め開催できることに努めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングにおいて外部評価についての勉強会を行い、外部評価を受ける目的など確認した。		前回の評価に対し実施できていない箇所もあり、改善していきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、民生委員、市より介護相談員等交えて会議を開催した。助言を得て、利用者、職員を積極的に地域の場に参加させていただいた。		これからも、会議を行い、助言を得てあおきの里の運営に活かしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括圏域の勉強会に参加等している。		今後も市の方と連携を図り、地域の皆様のお手伝いを積極的にしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ミーティングにおいて勉強会を行った。また、現在1名の入居者が権利擁護事業を利用されており、月1回支援員さんが来所されている。また、社会福祉協議会の担当の方とも連絡を取り合っている。		継続していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングでも勉強会、話し合いをして、注意を払っている。「心こそ大切なれ」という事業所のモットーを忘れず身体拘束・心の拘束をしないと話している。		研修の機会があれば参加していく。

## グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	見学时、入居前、入居時に理解されるまで説明できるよう努めている。		継続していきたい。
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	介護相談員さんにも月一度来所され、その時に話される入居者の方もいらっしゃる。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	ホーム便りでの報告や、利用者に応じて御家族にお写真を添えて状況などお手紙を送り報告している。当ホームが預かった預かり金は、出納帳のコピーを月末に一緒に送っている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	介護相談員さんの来所日もホーム内に掲示してお知らせしている。入居の説明時、重要事項等で苦情対応機関を説明している。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	ミーティングやリーダー会議で意見を聞く機会を設け努めている。会議時のみだけでなく、日頃よりその場その場で意見や要望を聞きお互いにコミュニケーションを図っている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	毎月第三木曜日にミーティングの開催をして入居者の状況の変化、対応などを話し合っている。朝、急に欠勤者が出て、対応できるように、待機者をつくるなどして勤務調整に努めている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の固定勤務を図り、異動がある時は各ユニット一人ないし、二人に留めている。入浴介助は1階・2階から職員が一人ずつ介助する為、違う階の職員でも、入居者の身体状況など把握できる。		職員の異動は最小限に留め、なじみある関係づくりを深めていきたい。

## グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>当法人は年齢、性別、経験は不問で募集を行っている。資格、経験がない方はヘルパー講習に行けるような環境づくりにも努めている。5月は1名の職員がヘルパー講習の予定。また、職員の特技を活かし、踊りや絵手紙、花植えが得意な職員もいる。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>理念を活かし、実際に取り組んでいけるように日頃より話している。</p>		<p>人権学習の参加機会がある時は、職員が行けるように努めていきたい。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ミーティングや勉強会、ヘルパー講習、外部研修で参加機会を設けた。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>包括圏域の勉強会での交流や、同業者からも入居者の紹介をいただいている。お互い居室の空き状況を確認して情報交換を行っている。</p>		<p>今後も事業所間交流を図っていきたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日頃より、職員の意見や提案、悩み等聞けるようにしている。また、時には職員との交流を図り親睦の場を設けている。</p>		<p>職員の悩みなど察知して、声かけ等し、働きやすい環境になるように今後も努めていきたい。</p>

## グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者でもあり、ホームにいる時間が多くあり、入居者の把握、スタッフの把握もしている。各リーダーとも情報交換、共有しあっている。リーダー専用申し送り帳もある。		さらに努めていきたい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訴えを傾聴して、利用者の考えを否定しないように努めている。新しい職員もいるので、指導していきたい。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	親身になり対応できるように努めている。また、直接、代表者へ電話相談される方もおられ、プライバシー確保に努めている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にお聞きしながら、その方に応じた介護サービスの紹介等を行っている		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人、御家族にホームへきていただき、御家族とホームが話しているときに入居者の方とお茶を飲んでいただいたり、他は体験デイをしたこともある。納得された上で開始していただくこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔のことは、入居者に教えていただくことばかりであり。また、洗濯物たたみ、お掃除など一緒に行い、その人らしさの演出に努めている。		趣味や特技などさらに活かせるような環境づくりに努めていきたい。

## グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族の皆様も悩みなどお持ちの方も多くおられ、話して下さる。ストレス解消になれば、また、何かできることがあれば、お手伝いさせていただきたいと思う。		御家族の皆様にとっても、話しやすい雰囲気であるように努めていきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者の中には、御家族と離れ離れになり、最初は帰宅願望があった方でも今は落ち着いていらっしゃる。時には外出泊をすすめたり、状況によっては面会の間隔を空けていただいたり良い関係が築けるように支援している。		ご利用者、御家族の思いを受け止めよい関係が保て、心身安定されるように支援していきたい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院受診などで、なじみの方に会われる時がある。また、入居者の住まれていた近所の方も面会にきていただき、以前を思い出されることがある。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	テーブルの配置を、いい関係でいられるように配慮した孤立しないよう努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても、御家族が訪れる時もあり、感謝の気持ちでいっぱいです。また、敬老会の時は慰問にきていただいたこともあった。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者に要望をお聞きし、生活に活かせることができるよう努めている。ミーティング等でスタッフも把握できるように話している。		

## グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、利用者、ご家族より今までの生活歴等お尋ねし基本情報用紙に記入している。また、会話の中からも情報を得て把握に努めている。		少しずつお尋ねし、介護に反映できるように努めていきたい。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居時には、利用者、ご家族、担当ケアマネージャーさんより聞き取り、ホームでも継続できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	話をする場を設けたり、面会へこられない御家族へは手紙でのご報告、お電話等で伝えている。スタッフ間でもユニット毎カンファレンスを行い介護計画に反映している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	急な変化の時は、電話連絡を行い状況報告を行っている。状態変化に応じて介護計画の見直しを行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、日誌、体温表など記録し、介護計画の見直しに活かしている。		今後、センター方式を取り入れ、充実した記録を図りたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	御家族の状況に応じて受診介助や、外出の支援に努めている。		

## グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	社会福祉協議会の担当の方や、地域の方にも協力していただき、支援している。		今後も他職種の方と連携を図って、オープンな事業所となるように努めて生きたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他包括圏域のケアマネジャーからの紹介もいただいている。主に入居の相談が多く、他のサービスにつなげられないこともある。		相談時には、介護保険外のサービス等も取り入れ、幅広く対応できるように努めていきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括からの紹介、空き部屋確認などの問い合わせ等多くいただいている。ご家族の支援が困難な方の受け入れも積極的に行い、社会福祉協議会や市の方と連携をとらせていただいている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元のかかりつけ医、病院を大事にし、継続できるように支援している。また、受診が困難な方などは、往診に来ていただいている。（訪問歯科、内科往診）		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	心療内科受診が必要な時は、ご家族へ相談し、受診介助をしている。車で15分以内のところであり、受診ができなくても、電話相談に応じて指示して下さることもある。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ病院や、協力病院の看護師さんに気軽に相談できる関係をいただいている。臨機応変に対応していただいている。		

## グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時は、御家族、先生と話し合いながら、早期に退院できるよう、努めている。長期入院の場合も回復後、ホームへ再入居できるよう、優先して対応している。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>御家族と協議の上、往診の打診や、急変の場合など話し、職員にも共有している。</p>		<p>ターミナルケアについての勉強を行い、いつでも職員が落ち着いて対応できるように周知していきたい。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>往診にきていただいている先生とも話しあいながら、ホームも無理のないように対応していただいている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ご本人には納得してもらった上で入居していただくと、気持ち落ち着かれる方が多いことを御家族に話しお願いしている。</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ミーティングや日々の中で、尊敬、尊重の意、プライバシーを守るなど声かけや対応、態度などに気をつけるよう話している。まだまだ完全ではないので、職員全員 穏やかに対応できるように心がけていきたい。</p>		

## グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	要望や、意見を取り入れ食べたい物やしたいことができるように支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大切に、ゆったりとした生活ができるように配慮に努めている。時には、職員も時間にあせりがあり、気持ちにゆとりがないときもある。		あせらない、あわてない介護がなくなるように職員の意識づけを深めていきたい。ゆとりができるような業務の改善に努める。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理容では入居者の要望を取り入れ、好きなように散髪していただいている。2ユニットは男性の入居者も多く、顔そりを好まれる方もおられ理容師の方に対応していただいている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、野菜そろえなどお手伝いしていただいている。食事は入居者と同じものを、職員も一緒に食べている。入居者も茶碗拭きお手伝いして下さる。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の嗜好を取り入れ、食べ物、おやつ等楽しめるよう提供している。		最近は、買い物に行かれる方が少ないので、要望をきき対応していきたい。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表に記入しパターンをつかんでいる、日中はトイレで排泄ができるように誘導している。		

## グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回の入浴の支援をしている。汗をかいたときや、入居前に長く入られていない方は、しばらく毎日入っていただくよう支援している。便汚染時など、その時の状況でも対応している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なかなか眠れない方はリビングでお茶をしたり、テレビを見ていただいたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お茶碗拭きや、歌、将棋など趣味や特技をいかせるよう環境づくりにつとめている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少しの金額でもお金を所持、管理することによって安心される方もいらっしゃる。買い物時は預かり金も少し持って支払えるように支援している。入居者の多くはできない方もいらっしゃる。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外を眺めれば安心される方、近所のお友達からお誘いを受け、外出される方もいらっしゃる。受診後に公園を散歩することもある。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	御家族とも外出される方もいらっしゃる。(地域行事の参加、食事等)		

## グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望があった場合は、御家族と相談した上、御家族の負担にならないように電話の支援をしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はしていない。面会時は面会簿に記入していただき、お部屋でお茶をゆっくり飲んでいただけるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い職員に伝達している。完全に覚えていないスタッフもあり、新しい職員も増えたので、理解できていないスタッフもいるので指導していきたい。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないように努めている。中には、入居者が、他入居者の部屋に頻繁に入られる方もおられ、不安解消のため、入居者自身が鍵の要望をされる方もおられる。個別に対応している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	訪室時は入居者をおどろかせないように必ずノックをするようにスタッフに指導している。朝の清掃時、10時、15時のおやつ時、食事時、一日三回の検温時、トイレ誘導時など所在確認をしている。夜勤帯も所在確認のサインを行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個別に応じ、職員が預かっている。衣類等汚れるため、職員がすべて預かったときもあったが、不安がみられたので、少しずつ戻したら安心されたケースもみられた。		個人に応じて、スタッフ間協議し、対応に問題があったら即座に対応できるように努めていきたい。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作って、掲示しているものもある。ヒヤリハット、事故報告書記入。ミーティングで話し合いをしている。マニュアルの見直し、整備を行いたい。マニュアルがない項目もある。		職員皆、知識の向上、対応など学習できる機会を設けたい。

グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署にて、人工呼吸、AEDの学習を行った。(今年度4名)全員がうけていない。定期的に行っていない。各居室に急変時対応の資料を掲示している。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防訓練に参加した。また、区長さんにも、あおきの里の災害時に地域の方へ協力していただけるようお願いした。		自主的な訓練も行っていき、地域の方にも協力をいただきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や計画書説明時などにおいてリスクについても説明し、一緒に対策を考えている。また、医師より助言等得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の検温や血圧測定で異常があるときは看護師へ報告。状況判断し、受診介助を行っている。申し送りノートに記載、共有している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が薬の目的や副作用まで理解しているとはいえない。また、1包化した薬も多く、どの薬が何の効果があるか把握できていないスタッフもいる。個人個人の薬ケースに薬を貼り、誤薬のないように努めている。		薬の勉強会を行い全員の知識の向上に努めたい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分の強化、運動を促したり働きかけている。乳製品を取り入れることもある。		便秘時の報告がおくれないように職員に指導していきたい。

グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア、声かけ支援。歯磨き、入れ歯の手入れ等歯科医から助言を頂いている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の確認、記録を行っている。摂取が少ない時は、好きなおやつや飲み物などで補給している。時間をおいて声かけ提供している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	資料などファイルしているが、全員がみているとは限らない。介助後の手洗い写真を掲示し指導している。		全員がファイルをみて勉強し、理解できるように努めたい。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事当番以外は調理しないように決めている。ペーパータオル使用、アルコール消毒の実施。定期的なハイター消毒。食材は前日朝、当日朝に買うよう努めている。食中毒予防講習会の参加、勉強会を行った。		冷蔵庫点検の記録がないので、早急に作成したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植え、畑をつくっている。今年はジャガイモを植えているので収穫が楽しみである。整理整頓ができていない箇所もある。2階のベランダにもプランターを置き、外に出られないかたにも楽しんでいただくよう配慮した。		外の整備ももう少し行っていきたい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れ、現在はこいのぼりの貼り絵(入居者が貼られた)をかざっている。テレビのボリュームやカーテン等その時に応じて配慮している。		

## グループホーム あおきの里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士話し合われる場面が多くみられる。また、事務所にきて話される入居者の方もおられる。		リビングは狭いが、少しでも、思い思いに過ごされるよう取り組んでいきたい。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のものはすべて御家族、ご本人の持ち込みである。以前から使われているものでよいことを見学時に説明している。仏壇を持ってこれられご飯をお供えされる方もいらっしゃる。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	部屋の換気に努めている、冷暖房使用時は温度をみながら設定している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、脱衣所に手すりを設置している。また、玄関前にはスロープ、手すりを設置、リハビリも行える。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱時には職員も落ち着いて対応ができるように努めている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑をつくったり、花を植えたりしている。そろそろ さくらんぼの実がなる頃であり、楽しみにしておられる。		

グループホーム あおきの里

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

## グループホーム あおきの里

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

他のホームにないような、低料金で、入居者も家族も安心していただけるよう、また、どなたにも入りやすいホームであるように努めている。また、新鮮なお野菜等のいただくことが多く、料理に活かし、入居者の方へ提供している。おどりが得意なスタッフもあり、時には着物をきて披露することがある。誕生カードには絵手紙を書いてプレゼントするスタッフもあり、喜んでいただいている。